都立病院の外来を受診した新型コロナ後遺症患者の症例分析

東京iCDC後遺症タスクフォースにおいて、都立病院の外来を受診した症例データをもとに、コロナの罹患後症状(いわゆる後遺症)について、分析を行った。

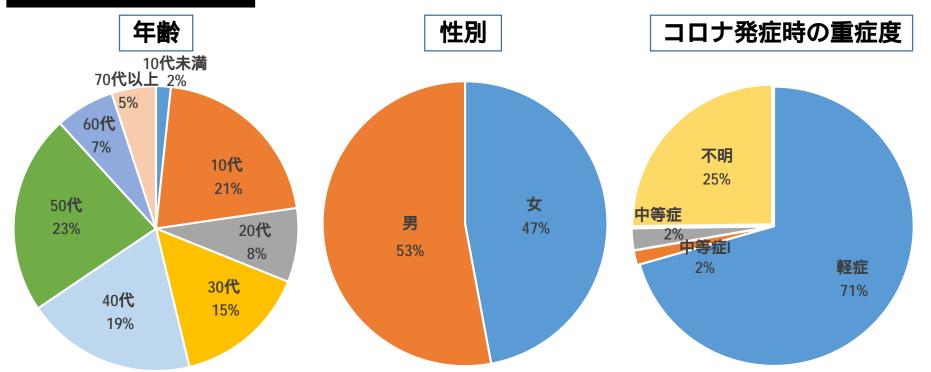
対象:都立病院のコロナ後遺症相談窓口8か所から自院の外来受診につながった

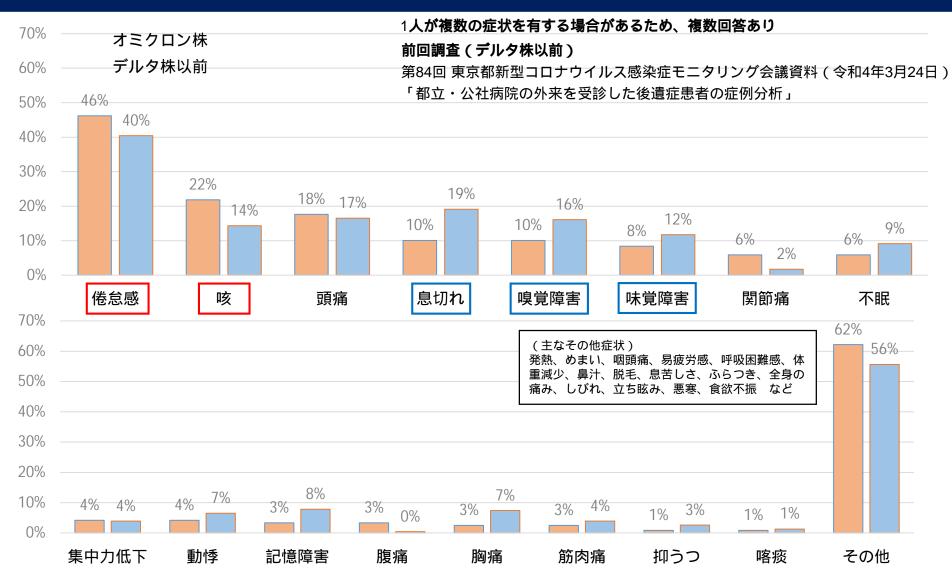
症例など、都立病院の外来を受診した後遺症が疑われる患者の症例のうち

陽性判明日が令和4年1月1日以降の症例(オミクロン株の疑い)

期 **間**: 令和4年7月20日までに受診した症例 **症例数**: 119例





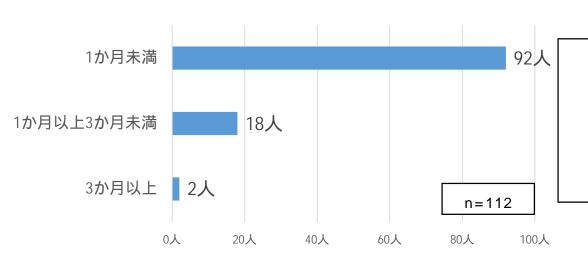


「倦怠感」が前回調査(デルタ株以前) と同様に最も多〈(6%上昇)、「咳」が前回から8%上昇 一方、「息切れ」は9%、「嗅覚障害」は6%、「味覚障害」は4%、前回調査より減少

2 後遺症の出現時期と改善状況

症状の出現時期(コロナ発症からの期間)

コロナ発症時期、後遺症の出現時期が「不明」の症例は除く。



全体の約82%(92人)がコロナ発症から1か月未満に後遺症の症状が出現しており、1か月以上経過後に出現している割合は約18%(20人)と少ない。

直近受診日における改善状況

発症~受診日までの期間や、改善状況が「不明」の症例は除く。

発症~直近受診日が2か月未満の症例は除(。

後遺症発症 ~	受診状況	
直近受診日	改善	症状継続
2か月から3か月	6	7
3か月から4か月	3	11
4か月から5か月	3	17
5か月から6か月	4	7
計	16	42

発症から直近受診日までの期間は異なるが、 70%(42人)が直近受診日において症状継続 となっている。

発症から3か月未満の人をみると、約半数の方が 改善している一方で、3か月以降は、症状継続の 割合が高い。

3 症状毎の直近受診日における改善状況

直近受診日における改善状況

発症~直近受診日が2か月未満の症例は除(。

発症~受診日までの期間や、改善状況が「不明」の症例は除く。

(倦怠感)

後遺症発症から直近受診日	受診状況	
後度派先派がら且近支が口	改善	症状継続
2か月から3か月	0	6
3か月から4か月	2	9
4か月から5か月	0	13
5か月から6か月	1	4
計	3	32

(咳)

咳・息切れについては、他の症状に比べて改善する割合が高い。

後遺症発症から直近受診日	受診状況	
	改善	症状継続
2か月から3か月	2	2
3か月から4か月	1	2
4か月から5か月	2	3
5か月から6か月	0	1
計	5	8

(頭痛)

後遺症発症から直近受診日・	受診状況	
	改善	症状継続
2か月から3か月	0	5
3か月から4か月	0	3
4か月から5か月	1	4
5か月から6か月	1	0
計	2	12

(息切れ)

後遺症発症から直近受診日	受診状況	
	改善	症状継続
2か月から3か月	1	1
3か月から4か月	0	0
4か月から5か月	1	0
5か月から6か月	2	2
計	4	3

(味覚障害)

	後遺症発症から直近受診日・	受診状況	
		改善	症状継続
	2か月から3か月	0	0
	3か月から4か月	0	2
	4か月から5か月	0	2
	5か月から6か月	0	0
	計	0	4

(嗅覚障害)

 後遺症発症から直近受診日 	受診状況	
仮處症先症がら且近文が口	改善	症状継続
2か月から3か月	0	1
3か月から4か月	1	1
4か月から5か月	0	1
5か月から6か月	0	0
言 十	1	3

4 まとめ

後遺症は、年齢やコロナ罹患時の重症度などに関わらず、発症する可能性があります。また、症状は長期間継続する場合もあり、本人だけでなく、周囲の方の後遺症への理解が重要です。

後遺症は確立された治療法がなく、**対症療法が中心**となりますが、今ある治療でも症状を改善できることもあります。

コロナ発症時から1~2か月以上症状が継続し、後遺症が疑われる場合は無理な活動は避け、**かかりつけの医療機関や「コロナ後遺症相談窓口」等へ御相談**〈ださい。

(参考)後遺症に関する手引等

【新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント」(第1.1版)】

- ・ 厚生労働省において、医療従事者等を対象とした後遺症診療のアプローチやフォローアップ方法についてとりまとめた手引きを作成(令和4年6月17日)
- 【後遺症タスクフォースによる新型コロナウイルス後遺症オンラインセミナー動画配信】
- ・ 7月31日に開催したオンラインセミナーの様子を動画にて配信しています。